有限会社シマコー

大藏 蓮さん

Okura Ren

Profile

小松市生まれ。小松工業高等学校を経てシマコーに入社。父親が市内で建築板金業を営んでおり、将来的には大藏さん本人を含め 4 兄弟で家業を支える予定。趣味はバイクで、カワサキの ZEPHYR X 400 に乗っているが、エンジン音が大きいので通勤使用は自粛。

有限会社シマコー（小松市）

1984（昭和 58）年設立。大手工務店からの仕事を中心に行う。組合の横のつながりを大切にし、同業者で協力し合って良い仕事をし、良い人材を育てている。「石川が誇る建築板金の技術を、若い世代につなげたい」と島田社長。【所在地】小松市丸内町鹿小屋 3-2【資本金】900 万円【代表】島田裕司

充実してるね!!

職場の人は優しくて、仕事に自信と誇りを持つ人ばかり。社長には「蓮」と名前で呼ばれています。

職人のこだわり

愛車のカワサキ ZEPHYR X 400です。職業柄、細かい作業は得意なので、手入れは怠りません！

仕事のやりがい

お客様の喜びと自分の満足がつながること

お客様に「きれいに仕上がった」と喜んでもらい、自分でも「きれいに仕上がった」と満足できたときに、大きなやりがいを感じます。

建築板金職人までの道のり

◎（株）大藏建築板金の三男として生まれる

↓

◎兄に続いて小松工業高等学校に入学

↓

◎家業に入る前の修業として（有）シマコーに入社

「シマコーでいろんな現場を体験させてもらい、建築板金技能士 I 級の資格を取得した後、家業に戻る予定です」（大藏さん）

自分の家だと思い、心を込めて仕事をするのが「職人」

シマコー（小松市）入社 2 年目の大藏蓮さんは 19 歳です。I 年目は、言われたこと、目の前のことをこなすだけで精一杯でしたが、2 年目の今は、周りの様子を見ながら手を動かす余裕が生まれ、自分で判断できることも増えたそう。四季もひととおり経験し、「夏の暑さ、冬の寒さは大変ですが、ぽかぽかと暖かい春や、空気が澄んだ秋は、屋根の上の作業も気持ちいいものですよ」と教えてくれました。

朝、会社に出勤し、前日に準備しておいた道具類を確認した後、現場へと出発。休憩時間や昼食を挟みつつ、金属の屋根、外壁、雨どいなどの施工を行います。その日の作業が終われば会社に戻り、道具の手入れをして翌日に備えます。

日々の仕事の中で大藏さんが大切にしているのは、お客様の家を自分の家だと思って、丁寧に心をこめて施工することです。「そうでなければ職人じゃありません」ときっぱり。きれいな仕事を心がけることで、自然にモノを大切にする気持ちが生まれ、身の回りのものも丁寧に扱うようになったといいます。

失敗をフォローしてくれる先輩に育ててもらっている

一人前の建築板金職人になるために学ぶべきことは、まだまだたくさんあります。

「先輩は動きにムダがなく、真似したいことだらけです。技術的なことはもちろん、どうすれば効率的に作業を進めることができるのかという現場の回し方の面でも参考になることが多いです」

新人ならではの失敗もあります。折板屋根に取り付けるエプロン面戸と呼ばれる部材を 3 辺ともしっかりコーキングしてしまい、先輩に「これじゃ雨水が抜けないぞ」と言われて青くなったことがあります。先輩の手を借りてやり直し、工事は問題なく終わりましたが、直後はかなり落ち込んだそう。「『そういう失敗は、職人なら誰もが経験することだから』と慰め、フォローしてくれる社長や先輩に育ててもらっています」と大藏さんは話します。

安定した職場環境を求めて異業種から転職してきた人も

毎週火曜は現場を離れ、建設共同高等職業訓練校に行く日です。同校では大藏さんと年齢が近い若手も学んでおり、格好の交流の場ともなっています。

大藏さんたちの世代は、石川の建築板金業界の次世代を支える世代です。

「自分は親が板金屋ということでこの仕事に就きましたが、シマコーには『この業界、この会社は安定しているから』という理由で異業種から転職してきた 22 歳の社員もいます。現在は家の外壁や屋根といえばガルバリウム鋼板など板金が主流になっています。台風や大雨の被害の修繕や、災害に備えたリフォームの案件も増えており、建築板金の仕事がなくなることはないという実感があります」

力強い言葉を聞かせてくれた大藏さん。まずは 2 級建築板金技能士の資格取得を目指して、学び、成長しています。